

# 「コンパス衛生薬学」改訂第2版第1刷

(2017.9. (株) 南江堂)

下記の通り内容の一部更新を行います。また、下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正														
83	↓10~11	追加され、さらに2014年から水痘に対する乾燥弱毒生ワクチンが追加されている	2014年から水痘に対する乾燥弱毒生ワクチンが、さらに2016年からB型肝炎ワクチンが追加されている														
	↓13	12疾患	13疾患														
84	表5・14 「種類」の列	A類疾病, 12疾患	A類疾病, 13疾患														
	表5・14	(A類疾病として「水痘ワクチン」の下に以下の行追加) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:20%;">B型肝炎ワクチン</td> <td style="width:20%;">B型肝炎</td> <td style="width:60%;">水平感染予防：生後2ヵ月から4週間隔で2回、さらに1回目の接種から20週以上経ってから1回の計3回 母子感染予防：B型肝炎母子感染防止事業による</td> </tr> </table>		B型肝炎ワクチン	B型肝炎	水平感染予防：生後2ヵ月から4週間隔で2回、さらに1回目の接種から20週以上経ってから1回の計3回 母子感染予防：B型肝炎母子感染防止事業による											
B型肝炎ワクチン	B型肝炎	水平感染予防：生後2ヵ月から4週間隔で2回、さらに1回目の接種から20週以上経ってから1回の計3回 母子感染予防：B型肝炎母子感染防止事業による															
115	本文脇*2 ↓6	HIV など	AIDS など														
	表7・2	(下表に差し替え)  <p style="text-align: center;"><b>表7・2 代表的な母子感染の種類</b></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="3" style="background-color: #e0f2f1;">経胎盤感染</td> <td>原虫</td> <td>先天性トキソプラズマ症</td> </tr> <tr> <td>細菌</td> <td>梅毒, リステリア感染症 など</td> </tr> <tr> <td>ウイルス</td> <td>後天性免疫不全症候群 (AIDS), 風しん, サイトメガロウイルス感染症 など</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="background-color: #e0f2f1;">経産道感染</td> <td>細菌</td> <td>淋菌, クラミジア, B群溶血性レンサ球菌感染症, リステリア感染症 など</td> </tr> <tr> <td>ウイルス</td> <td>AIDS, B型肝炎 など</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0f2f1;">経母乳感染</td> <td>ウイルス</td> <td>成人T細胞白血病, AIDS, サイトメガロウイルス感染症 など</td> </tr> </table>		経胎盤感染	原虫	先天性トキソプラズマ症	細菌	梅毒, リステリア感染症 など	ウイルス	後天性免疫不全症候群 (AIDS), 風しん, サイトメガロウイルス感染症 など	経産道感染	細菌	淋菌, クラミジア, B群溶血性レンサ球菌感染症, リステリア感染症 など	ウイルス	AIDS, B型肝炎 など	経母乳感染	ウイルス
経胎盤感染	原虫	先天性トキソプラズマ症															
	細菌	梅毒, リステリア感染症 など															
	ウイルス	後天性免疫不全症候群 (AIDS), 風しん, サイトメガロウイルス感染症 など															
経産道感染	細菌	淋菌, クラミジア, B群溶血性レンサ球菌感染症, リステリア感染症 など															
	ウイルス	AIDS, B型肝炎 など															
経母乳感染	ウイルス	成人T細胞白血病, AIDS, サイトメガロウイルス感染症 など															
214	↑9	景品表示法	食品表示法														

279	C (2) イラスト	poteto	potato
297	図 12・5	(第 II 相反応) 抱合反応 アセチル化 メチル化	(第 II 相反応) 抱合反応
301	表 12・3 CYP1A1 の代表的基質	3-メチルコラントレン, ダイオキシシ) ↑	3-メチルコラントレン) ↑
	表 12・3 CYP3A4 の代表的基質	アゾール系抗真菌薬 ↓ (イトラコナゾール, ミコナゾール)	イトラコナゾール ↓
306	図 12・12	 N-アセチル-p-ベンゾキノニンイミン	 N-アセチル-p-ベンゾキノニンイミン
310	↑ 1	が増大するために	が増大 (アセチル抱合を除く) するために
311	表 12・4 アミノ酸抱合の供与体 (補酵素)	CoA, グリシン, グルタミン	CoA, グリシン, グルタミン, タウリン
313	↑ 3	グリシンやグルタミンと	グリシン, グルタミン, タウリンと
314	↓ 3	基質となる.	基質となる. アミノ基・水酸基と比べてアセチル基は疎水性であるので, アセチル抱合体は水溶性が低下する.
315	ポイント ↑ 4	代謝活性化	代謝的活性化
317	表 12・6		(第 I 相: CYP2E1 の核内受容体に下記を追加) 核内受容体を介さない
	(脚注)		

		UDP-glucuronide transferase	UDP-glucuronosyltransferase
489	↓ 10	トリエタノールアミン・パラロザニン法	トリエタノールアミン・パラロザニン法